

# 令和7年度

# 広島県畜産要覧

広島県農林水産局畜産課



## 1 本県農業・畜産の概要

(1) 本県は、中国四国地方の中央部に位置し、北部は中国山地に、南部は瀬戸内海に面し、面積は8,479km<sup>2</sup>で、県土の75%を森林が占めている。沿岸、島しょ部地帯は、年平均気温15℃前後、年間降水量1,200mm未満であるのに対し、北部の山間地域は、年間降水量が2,350mmに達する地域もあり、冬期は寒冷で気温較差が大きく積雪も多い。この変化に富んだ自然条件と温暖な気候を生かし、稲作、果樹、野菜及び畜産など多彩な農畜産物が四季を通じて生産されている。

このような中で、畜産は本県農業生産の核となる役割を果たしており、中山間地域農業・農村の活性化を図る上で、重要な位置を占めている。

(2) 本県における令和5年の農業産出額は1,448億円で、畜産は産出額の48%、691億円を占め、米や野菜を抜いて第1位の位置にあり、本県農業の基幹部門として大きな役割を果たしている。

一方、全国順位では、農業産出額は24位で、畜産は15位であり、畜種別では鶏卵の5位を最高に豚14位、乳用牛24位、ブロイラー25位、肉用牛27位の位置にある。

区分	調査年月日	実数	全国順位
農家戸数	20センサス	22,290戸	21
農業就業人口	〃	27,600人	26
(基幹的農業従事者)		24,534人	26
(うち女性比率)		39.6%	21
(うち65歳以上)		83.5%	4
耕地面積	R6	50,500ha	27
(水田)		38,200ha	24
(普通畑)		6,770ha	29
(樹園地)		4,830ha	14
(牧草地)		622ha	21
(耕地面積調査)		(億円)	
農業産出額	R5	1,448	24
畜産		691	15
(乳用牛)		65	24
(肉用牛)		77	27
(豚)		146	14
(鶏卵)		361	5
(ブロイラー)		22	25
米		247	23
野菜		295	28
果実		167	14
花き		25	37
(生産農業所得統計)			

## 2 畜産振興の基本方針

「安心・誇り・挑戦 ひろしまビジョン」の実現のため、5年度を目指す姿を明らかにし、具体的な行動計画として策定した、「2025 広島県農林水産業アクションプログラム」（以下「AP」という。令和3年度～令和7年度）では、「生産性の高い持続可能な農林水産業の確立」を目指して、全ての施策を貫く「DXの推進」、「ひろしまブランドの強化」、「人材育成」の3つの視点を踏まえ、持続可能な広島和牛生産体制の構築を掲げ、ひろしまブランドに貢献する広島和牛のブランド化の推進と生産性を高めた持続性の高い企業経営体の確保・育成を重点施策として取り組む。

令和7年度は、現AP最終年度に当たることから、これまでの取組を振り返り、社会の環境変化に対応しながら、将来のあるべき姿に向け、県が取り組むべき今後5年間の施策の柱として広く県民に畜産振興の方向性を提示する次のAPを見据えて対応していく必要がある。

また、この取組を進めるため、畜産ワークや地域ワークの活動などを通じ、関係団体、本庁関係課及び地方関係事務所・畜産技術センター間で情報共有を図りつつ、畜産経営体の経営発展に資するよう、地域と連携して課題の解決を図る。

この取組のPDCAサイクルを回すため、毎年の実行計画を定め、活動に係る指標や事業目標を設定し、ビジネスプランを作成及びモニタリングを行うことで、ビジョンの実現を図るものとする。

さらに、現APの推進に当たっては、4年連続の「高病原性鳥インフルエンザ」の発生が、本来の畜産施策の取組推進に大きな影響を与えたことを踏まえ、農場周辺の野生動物対策や農場内における消毒計画など発生予防対策の強化とともに、重大な動物感染症の発生に備えることは通常業務と捉え、発生した場合を想定した対応計画案の充実と課題の抽出及びその解決に取り組み、行動マニュアルの修正、一般動員者・班員の手引きの改正に加え、防疫演習を通じて、より実効的な体制を構築する。

## 3 重点施策

### (1) 2025 農林水産業APの着実な推進

#### — 持続可能な広島和牛生産体制の構築 —

- ① 「ひろしま」ブランドの価値向上に資する広島和牛ブランドの確立
- ② 経営力向上による持続性の高い企業経営体の育成
- ③ DXの導入など生産基盤の強化による広島和牛生産体制の構築
- ④ 畜産施策の阻害要因となる家畜伝性疾病の発生予防

#### — 安全・安心な農林水産物の提供体制の確保 —

- ① 家畜伝性疾病の発生予防策の指導、まん延防止措置の迅速かつ的確な実施
- ② 食の安全・安心確保のための動物用医薬品等の適正管理・使用の推進・監視
- ③ 牛海綿状脳症特別対策措置法に基づく死亡牛BSE検査の実施

### (2) 家畜衛生対策の強化

- ① 広島県危機管理対策運営要領【重大な動物感染症】に基づく危機管理体制の確立
  - ・鶏及び豚農場の対応計画案における課題の共有と課題解決に向けた取り組み
  - ・高病原性鳥インフルエンザ危機対策運営要領の改正、行動マニュアルの修正・作成、一般動員者の手引きの改正、ガイドラインの改正
  - ・アフリカ豚熱の侵入に備えた体制構築の検討
- ② 畜産現場における重大な動物感染症等の発生予防対策の充実・強化
  - ・鶏及び豚農場の発生予防対策優良事例の取りまとめ及び共有
  - ・豚熱ワクチン接種計画（追加・補強、免疫付与状況調査）に基づく接種体制の維持
  - ・大規模酪農農場におけるヨーネ病検査体制の構築
  - ・牛で発生した鳥インフルエンザやランピースキンといった海外で発生する悪性伝染性疾病的の対応情報収集と速やかな対応
- ③ 重大な動物感染症が発生した場合に備えた農場分割管理の推進

## 4 主要施策

### (1) 持続可能な広島和牛生産体制の構築

#### ① 広島和牛のブランド向上

- ア 「比婆牛」がひろしまブランドに貢献する食の代表の一つとなるよう、令和3年度に策定したブランド戦略を基に、引き続き取組を実施する。あわせて、この取組を神石牛などの広島和牛銘柄団体と共有することで、広島和牛のブランド向上に資する。
- イ ブランド向上には、実際に体験できる場を消費者へ提供することが有効であるため、昨年度に続き、取扱店舗の拡大に向けた県内高級飲食店での定期提供の実施とニーズに対応した流通の仕組みを検討する。
- ウ ブランドイメージを醸成し、顧客の需要の拡大を図ると共に、ステークホルダー(生産者や料理人等)のエンゲージメントを高めるため、県内・首都圏のメディアを通じて、県内外の人に向けたプロモーションを行う。
- エ 広島和牛改良目標を基本に、広島血統に着目した広島県の強みに資する育種及び種雄牛造成を行う。また、第12回全国和牛能力共進会で得られた脂肪の質評価や優秀種雄牛「花勝百合」等の改良の成果を活用し、県有種雄牛の交配や雌子牛の保留を促進することで、広島和牛肉供給の面からブランド力向上を下支えする。
- オ 令和7年度以降の取組は、おいしい！広島プロジェクトと連動して効果的に実施する。

#### ② 企業経営体の育成

##### [経営者の育成]

- ア 企業経営を目指す経営体が抱える課題解決については、チーム型支援や雇用・人材育成などの共通課題解決に向けた地域及び県域によるセミナー等を通じた支援に取り組む。
- イ 経営体の法人化や法人化後の経営発展段階に応じた経営力の向上については、専門家の派遣等により支援する。
- ウ 畜産GAP等の研修会による取組経営体の掘り起こしや専門家の派遣を行うとともに、畜産GAPやHACCPに取り組む先進事例の共有等、導入に向けた啓発を行う。
- エ スマート農業については、省力化による経営発展が図られるよう、推進体制を構築し、実証試験の取組や研修会の開催を通じて、導入を推進する。

##### [100頭以上の生産基盤強化]

- ア 繁殖及び肥育経営体の持続的な生産体制を確保するため、市町や関係団体と連携し、酪肉近代化計画や畜産クラスター計画等に基づく生産基盤の強化・拡大を図るとともに、畜舎等の建築等及び利用の特例に関する法律（畜舎特例法）の適切な利用を推進する。
- イ 酪農経営体による受精卵産子を活用した広島血統和牛の供給頭数の拡大を図るため、畜産技術センターで開発された新技術の普及定着を進め、受精卵移植の受胎率向上の取組を推進する。
- ウ 後継者不在の経営体の情報を把握するとともに、第三者への経営継承の仕組みを構築し、既存の経営資源の有効活用による維持拡大を図る。
- エ 全国和牛能力共進会及び県畜産共進会の取組、比婆牛や神石牛などの地域の取組、肉用牛経営安定対策補完事業等による繁殖牛舎の建設や繁殖牛の導入促進など、市町や生産者団体等と連携し、広島血統和牛の増頭を図る。

オ 価格変動等に備え、「肉用子牛生産者補給金制度」及び「肉用牛肥育経営安定交付金制度」の活用を通じ、安定的な経営を持続する。

#### [畜産関係者の人材育成]

家畜人工授精師等に係る講習会を開催し、畜産振興に携わる人材の育成を図る。

#### [家畜衛生対策の取組]

ア 飼養衛生管理基準の遵守指導及び計画的な家畜疾病検査体制の確保により、危害要因を確認し、飼養環境整備を図る。

イ 畜産GAP等の導入指導を活用しながら、疾病や事故発生リスクを低減した損耗防止を図る。

### (2) 酪農・養豚・養鶏における経営力と販売力の強化

#### [酪農]

① 酪農経営基盤の安定のため、乳用牛群検定の活用推進などを通じ、適切な繁殖管理及び乳牛の性判別精液の利用等により乳用後継牛を確保しつつ、和牛の受精卵移植を拡大し、酪農経営の高度化及び収益性の向上を図る。

② 酪農経営における持続的な生産体制確立のための畜産クラスターの仕組等の活用による経営力向上や、生産基盤の強化及び畜舎特例法の適切な利用を推進するとともに、県産生乳による学校給食用牛乳の供給促進や飲用牛乳の適正な価格形成に向けて消費者の理解を得るための取組等を支援する。

③ 関係団体と連携し、酪農経営体の経営計画に基づく搾乳ロボットなどのスマート農業技術の導入や、第三者経営継承等の生産基盤強化の取組を支援する。

#### [養豚・養鶏等]

① 畜産クラスターの仕組や畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（施設整備事業・機械導入事業）を活用して、生産基盤の強化を図るとともに、畜舎特例法の適切な利用を図る。

② 飼料用米の有効活用によって畜産物の付加価値を高め、広島県産応援登録制度を活用した畜産物の販売力強化を図る。

③ 鶏卵及びブロイラーについては、高病原性鳥インフルエンザ等の対策に視点を置いた鶏舎及び鶏卵処理施設等の整備のほか、鳥インフルエンザ等発生後の事業者の経営再開の取組を支援する。

④ 養蜂は、飼育届及び転飼許可申請の適切な提出や転飼調整会議の開催などにより、蜂群の適正な配置及びはちみつ等の生産確保を図る。

### (3) 自給飼料の低コスト生産と利用の強化

#### [自給飼料の低コスト生産と利用拡大の推進]

① 飼料価格の動向に左右されない安定的な畜産経営を推進するため、飼料自給率の向上と生産コストの低減により経営の安定化を図るとともに、良質かつ安価な自給飼料生産のため、飼料用稲等の品質向上や奨励品種の活用による単位収量の増大を推進する。

② 飼料基盤の充実を図るため、畜産クラスターの仕組等の活用による牛専用混合飼料（TMR）及び自給飼料の利用促進並びにコントラクター組織の育成と機械等の共同利用を進める。

### [耕畜連携による資源循環型畜産の推進]

- ① 水田フル活用による耕種農家と畜産農家との連携を進めることにより、飼料用稲、飼料用米、飼料作物の生産や稲わらの利用、放牧など、土地基盤に立脚した生産構造への転換を促進し、飼料自給率の向上を図る。
- ② 耕種農家のニーズに応じたペレット堆肥等の高品質堆肥の生産や、堆肥の広域流通等に必要な機械・施設整備等の取組を支援する。
- ③ 家畜排せつ物の適正管理及び堆肥生産技術等の指導を行い、良質堆肥の生産及び利用の拡大を促進し資源循環型農業を推進するとともに、良質堆肥を飼料基盤や耕作地等へ還元することにより、畜産経営に起因する環境問題の発生を未然に防止する。



### [畜産経営の環境整備]

- ① 地域において、畜産経営に起因する環境問題の発生を未然に防止し、畜産経営を安定的に継続できるよう畜産農家に対して「家畜排せつ物法」に定める管理基準の遵守を徹底し、関係機関と連携してふん尿処理施設の整備や環境保全指導等を行うとともに、権限移譲を行った市町に対しても、連携して巡回・指導等を実施し、技術的なフォローアップを行う。
- ② 大規模経営体に対し、関係機関と連携して環境保全指導等を行い、環境問題の発生を未然に防止する。
- ③ 「広島県における家畜排せつ物の利用の促進を図るための計画」により、生産された堆肥の地域内又は広域での有効活用の取組を関係者と一体となって推進する。

### (4) 家畜衛生対策の強化

#### ① 重大な動物感染症に対する危機管理体制の充実・強化

鳥インフルエンザ、豚熱、口蹄疫等の重大な動物感染症が発生した場合、防疫措置を迅速かつ的確に実施するため、防疫対策組織の充実等危機管理体制を整備する。

ア 鳥インフルエンザ発生に係る防疫措置の検討した内容を防疫演習等により確認し、防疫体制に反映させる。

イ 関係機関（支援部・支援班等）、市町等（危機管理部署等）との連携体制の強化を図る。

ウ アフリカ豚熱の侵入に備えた県内の防疫体制構築に向けた検討を行う。

#### ② 家畜伝染性疾病の発生予防

##### [家畜伝染性疾病の発生予防の推進]

家畜伝染性疾病の発生を未然に防止し経営安定に資するため、関係団体及び畜産経営者に

対し、適切な情報提供及び飼養衛生管理基準の遵守指導を通じ防疫意識を徹底する。あわせて、病性鑑定の診断技術・精度管理の向上を図るとともに、県内の家畜疾病等の発生状況に応じた検査・予防体制を確保する。

#### **[豚熱等の発生予防対策の推進]**

豚熱ワクチン接種計画に基づく接種体制を維持するとともに、豚熱等の野生イノシシへの感染状況を把握し養豚場での発生防止を図る。

#### **[牛ヨーネ病、牛伝染性リンパ腫対策の推進]**

乳用牛及び和牛繁殖牛におけるヨーネ病の撲滅を推進するとともに、大規模酪農農場におけるヨーネ病検査体制を構築する。また、本県で継続的に発生が確認されている牛伝染性リンパ腫の拡大防止を図り、経済的被害を軽減するための取組を推進する。

#### **[新たな感染症対策の推進]**

米国で発生した牛の鳥インフルエンザや国内で初めて発生したランピースキン病といった海外で発生する悪性伝染性疾病の情報収集と速やかな対応ができるよう、前倒しの対策検討を行う。

### **③ 農場分割管理の推進**

施設及び飼養管理を完全に分け、農場を複数に分割管理する農場を支援し、重大な動物感染症発生時の感染拡大リスクを低減させる。

### **(5) 獣医療体制整備**

安全・安心な畜産物を安定供給するためには適切な獣医療の提供が必要であるため、獣医系学生の職場研修等を受け入れ、産業動物獣医師の育成に寄与するとともに、獣医事の適切な推進により畜産業の発展等に寄与する。

### **(6) 和牛遺伝資源の適切な管理の取組**

海外への和牛遺伝資源の流出を防ぎ、和牛精液等の価値の保護や流通の適正化を図るため、改正家畜改良増殖法に基づき、国と連携し、家畜人工授精所等における適切な保管・管理を助言・指導する。

## 5 畜産振興の体系・予算

(単位：千円)

畜産関係予算額	1,836,959 (R 7年度当初)
1 持続可能な広島和牛生産体制の構築	793,583 <749.2%>
「ひろしま」ブランドの価値向上に資する広島和牛の強みの確立	(89,010)
酪農・養豚・養鶏における経営力と販売力の強化	(704,573)
2 安全・安心を提供する生産体制の強化	205,739 <70.3%>
安全性確保対策	(205,739)
3 新技術の開発・普及対策	106,075 <103.7%>
畜産技術センター費	(106,075)

## 6 参考資料

### (1) 家畜の飼養頭数

区分	飼養戸数	飼養頭羽数	1戸当たり頭羽数	備考
乳用牛	110戸	8,990頭	81.7頭	農林水産統計(畜産統計R6.2.1現在)
肉用牛	407戸	27,700頭	68.1頭	〃
豚	24戸	147,600頭	6,150頭	〃
採卵鶏	41戸	9,260千羽	226千羽	〃
蜜蜂	479戸	6,653群	13.9群	令和6年飼育届(R6.1.1現在)

### (2) 主要畜産物の県内処理状況及び県内自給率

(単位：t、%)

区分	年	県内生産量 A	県内処理量 B	A/B×100	備考
生乳	R 5	51,532	70,839	72.7	
牛肉	R 5	—	8,622	—	(と畜、枝肉ベース)
豚肉	R 5	—	4,389	—	(と畜、枝肉ベース)
鶏卵	R 5	116,953	—	—	

※ 畜産物流通統計(「畜産振興施策の概要」資料参照)

※ 22年以降、畜産物流通統計における都道府県別出荷頭数調査が終了したため、牛肉及び豚肉の県内生産量Aは空欄とした。

## (3) 畜産物価格の動向

(単位：円)

年	生乳 1kg	牛肉 (1kg)		豚肉上 1kg	ブロイラー 1kg	鶏卵M 1kg	子牛 1頭	子豚 1頭
		和牛去勢	乳牛去勢					
平成5	87.1	1,527	955	462	186	157	303,951	21,136
13	82.2	1,455	820	479	173	172	338,674	23,984
14	82.2	1,258	508	488	—	179	335,421	24,408
15	83.2	1,642	858	418	—	157	396,828	16,942
16	82.7	1,786	961	478	—	184	444,545	20,377
17	81.1	1,983	975	478	—	197	474,053	—
18	79.3	2,014	1,041	482	—	180	505,628	—
19	78.9	1,897	940	500	—	181	497,339	—
20	89.0	1,998	865	457	—	209	423,809	—
21	89.6	1,834	798	428	—	180	370,924	—
22	88.2	1,724	685	457	—	193	371,315	—
23	89.3	1,722	640	477	—	199	396,040	—
24	90.3	1,694	622	442	—	179	393,108	—
25	91.0	1,924	783	481	—	202	471,821	—
26	95.9	2,014	858	575	—	217	544,786	—
27	99.5	2,429	1,096	569	—	228	627,111	—
28	101.0	2,700	1,069	527	—	212	795,027	—
29	102.4	2,609	1,038	569	—	209	756,228	—
30	103.1	2,635	1,086	516	—	191	761,433	—
31	105.0	2,572	1,079	528	—	174	751,985	—
令和2	105.5	2,401	1,034	561	—	176	663,942	—
3	103.7	2,728	1,064	541	—	219	758,468	—
4	104.2	2,599	1,188	537	—	218	667,647	—
5	114.7	2,468	1,252	552	—	317	540,224	—

※ 「畜産振興施策の概要」資料参照

※ H17年から全農広島子豚市場廃止

#### (4) 飼料作物の作付状況

飼料作物

(単位：ha)

年	H6	H13	H14	H15	H16	H17	H18
混播牧草	1,817	950	927	722	778	729	631
イタリアン	1,836	1,164	1,133	1,141	1,130	1,099	1,144
トウモロコシ	539	303	282	251	224	210	126
ソルガム	487	282	259	266	240	224	154
その他	448	391	389	472	512	446	521
計	5,127	3,090	2,990	2,852	2,884	2,708	2,576

年	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	R2
牧草	2,030	1,990	1,970	2,110	2,130	2,160	2,130	2,080	2,080	2,070	2,050	1,820
青刈りトウモロコシ	300	277	264	250	225	225	225	214	208	205	170	143
ソルガム	239	233	229	231	199	218	225	222	206	202	209	155
計	2,569	2,500	2,463	2,591	2,554	2,603	2,580	2,516	2,494	2,477	2,429	2,118

※H18年まで：広島県畜産関係諸調査(2月1日現在)

※H19年以降：農水省「作物統計調査」

※H30年及びH31年についてはデータなし

飼料用稲

(単位：ha)

年度	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
WCS用	3	32	83	121	111	104	104	107	128	132	159	194
飼料用米	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	13	53
計	3	32	83	121	111	104	104	107	130	135	172	247

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
WCS用	229	216	280	449	520	539	553	546	549	585	614	708
飼料用米	64	57	93	375	530	519	410	321	293	424	518	443
計	293	273	373	824	1,052	1,058	963	867	842	1,009	1,132	1,151

年度	R6
WCS用	740
飼料用米	355
計	1,095

※ 畜産課調べ

### (5) 肉用牛の受精卵移植の推移

体内受精卵移植

(単位：頭)

年度	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
移植頭数	803	782	669	643	550	468	398	529	613	381	274	322	296	332	304
受胎頭数	323	327	246	237	195	169	156	237	291	209	128	159	143	156	94
年度・年次	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5					
移植頭数	205	145	113	185	238	179	290	318	377	96					
受胎頭数	73	49	55	88	90	76	127	133	154	23					

体外受精卵移植

(単位：頭)

年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
移植頭数	48	154	136	189	272	384	440	269	415	586	683	1,036	1,038	824	828
受胎頭数	12	37	60	82	138	159	195	122	182	255	196	322	287	282	274
年度・年次	R2	R3	R4	R5											
移植頭数	920	949	1,023	1,170											
受胎頭数	315	326	412	448											

※ H27年実績までは家畜改良関係頭羽数等調査（年度）、それ以降は県独自調査（年次）

### (6) 畜産GAPの取組み

品目	JGAP家畜・畜産物認証取得経営体
鶏卵	株式会社東城ポートリー東城農場
	株式会社東城ポートリー竹森農場
	株式会社東城ポートリー庄原農場
	株式会社東城ポートリー南山農場
	有限会社久井ポートリー育成部門
	有限会社グリーンファーム

※国資料よりR5.7月現在

令和7年5月作成